

1 社会・治安情勢

(1) カラチ市

2013年9月以降、治安機関がパキスタン・タリバン運動（TTP）等のテロ集団を集中的に取り締まり、検挙及び銃器や爆発物等の押収を進め、大規模な爆弾テロ等の阻止を図っている（通称「カラチ掃討作戦」）ほか、2015年3月11日には、準軍部隊レンジャーが、シンド州を基盤とする政党「統一民族運動（MQM）」の本部を捜索し、大量の武器弾薬を押収、多数の重大事件被疑者を逮捕したことにより、凶悪犯罪が減少し、治安の回復が謳われている。しかしながら、同年5月13日、イスラム教シーア派教徒の乗ったバスが武装集団に襲撃され、バス乗客等46人が殺害される事件が発生、テロの脅威が顕在することを示した。2016年4月には、ポリオの予防接種会場を警備中の警察官7名が武装集団に襲撃され殺害されたほか、5月には中国人技師を標的にした爆弾テロ事件が発生している。カラチ市内ではテロリストの掃討が進み、テロ集団の勢力が減退しているものの、これら事件のように、比較的警備の手薄ないわゆる「ソフトターゲット」に対する攻撃は、少人数のテロ集団であっても行いうる上、テロ集団は、警察官を襲撃する攻撃能力をいまだ保持していることから、引き続き十分な注意が必要である。

(2) バロチスタン州

4～6月も引き続き治安機関によるテロリスト掃討作戦が継続され、多くのテロリストの逮捕、投降等あるものの、宗教過激派や民族主義武装集団による異宗派、移民、治安機関等を対象とした標的殺人や爆弾テロは依然多発している。5月には3件の爆弾テロ事件により辺境警備隊（FC）員5名が死亡し、6月には1件の爆弾テロ事件により同3名が死亡している。同州では、現在もバロチスタン州治安機関とテロ集団が臨戦状態にあり、治安情勢は極めて悪い。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 犯罪統計

シンド州警察が発表した4～6月の犯罪統計によれば、カラチ市内におけるテロリスト等凶悪犯罪者を対象とした掃討作戦の成果により、殺人、身代金目的誘拐、強盗等の凶悪犯罪発生件数は、昨年同期より漸減している。一方、総犯罪発生件数および窃盗の発生件数は増加傾向にあるが、これは、治安機関の活動の多くが同作戦に充当されていることから、窃盗等一般犯罪に対する抑止力が弱まっているとの見方もある。

また、交通死亡事故の発生件数も増加しており、過酷な交通事情は依然改善されていない。よって、犯罪に対する注意警戒のみならず、安全な道路交通を十分心がける必要がある。主な犯罪種別の内訳は以下のとおり（カッコ内は前年同期）。

- ・ 総犯罪発生件数 10,586件（9,821件）
- ・ 殺人 156件（192件）

- ・ 身代金目的誘拐 8件（15件）
- ・ 強盗 716件（1,129件）
- ・ 窃盗 1,453件（1,308件）
- ・ 武器不法所持 1,327件（1,790件）
- ・ 交通死亡事故 116件（106件）

(2) 邦人関連事案
なし

3 主なテロ・爆発事件等発生状況

(1) シンド州・カラチ

- ア 4月2日、警察は拘留中の被疑者による情報に基づき、カラチ市ビン・カシム地区にあるテロ集団「ラシュカレ・ジャングビ（LeJ）」の拠点を捜索し、LeJ構成員4名を殺害、武器、弾薬、盗難被害のオートバイを押収した。
- イ 4月5日、警察は「テロリスト潜伏」の情報に基づき、カラチ市ガダップ地区にあるテロリスト拠点を捜索し、テロリスト2名を殺害、自爆ベスト2着、手榴弾、アサルト・ライフルを押収した。
- ウ 4月20日、カラチ市オランギ地区において、オートバイに乗った男たちが、ポリオ予防接種会場を襲撃、警察官7名を殺害した。ポリオ予防接種運動員に被害はなかった。
- エ 4月21日、警察のテロ対策部（CTD）は情報に基づき、カラチ市マリール地区所在のTTP拠点を捜索し、TTP構成員3名を殺害、武器、弾薬、爆発物およびオートバイ1台を押収した。
- オ 5月30日、カラチ市ビン・カシム地区において手製爆弾（IED）が爆発し、中国人技師の乗った車両のパキスタン人運転手が負傷した。現場には、テロ集団「シンド革命軍（SRA）」の関与を示す紙片が遺留されていた。
- カ 5月30日、カラチ市ランディー地区において、イスラム教徒シーア派教徒とスンニ派教徒が、土地の境界を巡り衝突。衝突は銃撃戦に発展し、シーア派教徒1名が死亡、5名が負傷した。
- キ 6月20日、カラチ市クリフトン地区の外国人が多く利用する高級スーパーマーケット駐車場において、シンド州高等裁判所長官の子息が誘拐された。
- ク 6月22日、カラチ市リヤカタバード地区において、著名な宗教歌手が車両を運転中、オートバイに乗った男たちに銃撃を受け死亡した。TTPの分派が犯行声明を出した。
- ケ 6月24日、警察は「TTP構成員潜伏」の情報に基づき、カラチ市マリール地区を捜索し、TTP構成員3名を射殺、自動小銃1丁、けん銃2丁、偽造された身分証明書2通を押収した。

コ 6月30日、シンド州レンジャーは情報に基づき、カラチ市リヤリ地区のテロリスト拠点を捜索し、L e J構成員1名およびT T P構成員1名を射殺し、小銃1丁、爆薬4kg、自爆ジャケット4着を押収した。

(2) バロチスタン州

ア 4月5日、シビ県バフティアラバードにおいて、ラホール発クエッタ行き旅客列車に対し遠隔操作による爆弾テロおよび銃撃があり、乗客1名が死亡、3名が負傷した。

イ 4月9日、F Cは、カラート県ジョハン地区の山岳地帯にあるテロ集団拠点数カ所を3日間にわたり捜索し、テロ集団「バローチ連合軍（U B A）」構成員34名を殺害、大量の金、現金、武器を押収した。F C側も1名が死亡、2名が負傷した。

ウ 5月10日、クエッタ市内所在のバロチスタン大学の通用門外側で爆発があり、通用門に配置されていた警察官2名が死亡、警察官3名を含む5名が負傷した。

エ 5月19日、クエッタ市郊外のイースタン・バイパスを警察の有事即応部隊の車両が巡回中、路傍に仕掛けられた爆弾が爆発し、警察官1名が死亡、同5名が負傷した。爆弾には4～6kgの爆薬が使用されていた。

オ 5月22日、チャガイ県ノーシュキー地区付近において、アメリカ軍の無人航空機が、イラン国境付近を車両で走行中のムッラー・マンスール・タリバン指導者を攻撃して殺害した。

カ 5月24日、クエッタ市スピニー・ロードの高架橋付近を走行中の警察車両を標的とした爆弾テロがあり、警察官2名が死亡、警察官4名、市民4名の合計8名が負傷した。高架橋付近に仕掛けられたI E Dが遠隔操作により起爆された。

キ 6月24日、クエッタ市アルモ・チョウクの市場において、自転車に仕掛けられた爆弾が爆発し、買い物客および商店店員3名が死亡、28名以上が負傷した。事件当時、現場は断食月開けの祭りに備える買い物客で混雑していた。

ク 6月29日、クエッタ市サリアブ地区を巡回中のF Cが何者かに銃撃を受け、隊員4名が死亡した。30日、F Cは同地区を捜索し、本件容疑のかかるL e J構成員3名を殺害した。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

シンド州警察が発表した4～6月の犯罪統計によれば、カラチ市内における身代金目的誘拐は8件（前年同期15件）、身代金目的以外誘拐は381件（前年同期407件）、児童誘拐は19件（前年同期24件）発生し、誘拐を巡る状況は改善傾向にあるが、依然多発していることから、引き続き十分な注意が必要である。邦人が被害となる誘拐事件は発生していないものの、テロ組織が資金獲得のため犯行に及ぶ場合や、一般犯罪組織等が誘拐した被害者を金銭目的で売り渡す場合もある。在留邦人を含む外国人が誘拐された場合には、事件が長期化する可能性が高いことから、当地で生活

する場合、誘拐犯などの犯罪者に隙を与えない日常行動が重要である。

5 日本企業の安全に関する諸問題

(1) 渡航の際の留意事項

当地では現在、TTP等テロ集団による治安機関に対する報復に対して警戒を強めている状況にある上、比較的警備の手薄ないわゆる「ソフトターゲット」がテロの標的とされる傾向にある。よって、当地へ渡航される場合は、事前に報道等により最新の治安情報を確認するとともに、外務省ホームページに掲載されている渡航情報等を参考にし、渡航の是非を充分検討していただきたい。

(2) 駐在される場合

当地ではテロの危険がある他、けん銃強盗等の路上犯罪も頻発しており、実際に在留邦人被害の強盗事件も発生している。また、テロ集団による営利を目的とした誘拐等の被害に遭う可能性も否定できないことから、当地に駐在される場合は、必ず外務省海外安全ホームページ掲載の各種安全対策資料や当館ホームページ掲載の「安全の手引き」等をご活用の上、十分な安全対策を講じていただきたい。

もし事件に巻き込まれた場合、在外公館と在留邦人が緊密に連携して情報を共有し、安全を確保する必要があることから、当館への連絡を徹底していただきたい。